

### スズメノカタビラとの仁義なき戦い

芝生の最も代表的な雑草といえばスズメノカタビラでしょう。スズメノカタビラは芝草と同じイネ科で系統的に極めて近いので、芝生管理での難防除雑草として知られています。これから目立ってくるお馴染みの雑草について、改めておさらいしておきましょう。



スズメノカタビラ（「野草・雑草観察図鑑」より）

「スズメノカタビラ」という名前は、細く小さな穂をつけた花穂を雀のかたびら（帷子）にみたててつけられたと言われています。かたびらとは忍者が着たとされる「くさりかたびら（鎖帷子、今でいう防弾チョッキ）」からわかるように、ひとえの下着の昔の呼び名です。

スズメノカタビラ（英名：アニュアルブルグラス）は寒地型の代表的なイネ科雑草で、線形平滑で尖った葉を持ち、通常5～30cmほどの草丈に成長します。寒さに強く日陰でも生育でき、土が固く踏みつけられるところでも平気で生え、低刈条件下でも生育可能、3～4mmの穂でも完熟した種子を形成できるという、「最強」と謳いたくなる雑草です。ただ21℃以上になると生育は衰えます。芝生地は刈込みや踏圧のある特殊な空間なので、だからこそ目立つということもあるでしょう。種子が好光性のため発生深度が浅い（4cm以下）のも、耕起しない芝生地での雑草ならではの言えます。



↑スズメノカタビラの花穂

[http://had0.big.ou.s.ac.jp/~hada/plant\\_sdic/angiospermae/monocotyledoneae/gramineae/suzum-enokatabira/suzum-enokatabira.htm](http://had0.big.ou.s.ac.jp/~hada/plant_sdic/angiospermae/monocotyledoneae/gramineae/suzum-enokatabira/suzum-enokatabira.htm)

当初、秋に発芽し、分けつしたのち株を形成して越冬、春から初夏にかけて開花し結実して盛夏に枯れる一年生とされてきました。ところが近縁種との交雑ゆえか、現在では多年生やほふく茎の種が一般的となっていて、芝生管理では周年にわたり問題となります。また種子の休眠が一般に極めて浅く、温度・湿度・光などの条件が整えば一年中どの時期でも発生・生育・開花可能です。数年生育した個体が薬剤処理後も枯れ残るケースもあるようです。

	一年生タイプ	多年生タイプ
草型	株立型	ほふく型
分けつ	少ない	多い
出穂数	多い	少ない
種子休眠	あり	なし
開花時期	春～初夏	周年
生育条件	乾燥～湿潤	湿潤
発芽適温	5～20℃	10～30℃

←スズメノカタビラ生態比較（「緑の安全管理士」テキストより）

スズメノカタビラの特徴	特徴を利用した防除方針
一年中発生する	春秋の発芽前土壌処理剤で発生を抑える。処理層を安定させるためにサッチ集積を防ぐ（刈カス除去など）
施肥により発芽が促進される	発芽前土壌処理剤散布後に施肥、または施肥後発芽を揃えてから防除
発生深度が浅い（光が当たると発芽しやすい）	高刈が有効（低刈すると発芽が促進されてしまう）
土壌中に窒素が多いと栄養生長が続き優占が促進される（花序形成は遅れる）	特に低温時（7～13℃）の窒素多用は極力避ける
土壌中にリン酸が多いと出穂形成が促進される	スズメノカタビラ優占地では春先のリン酸施用は控える
酸性土壌を好む（日本の土壌に適している）	土壌が酸性に偏り過ぎないようにする
耐湿性が高いので滞水地帯で優占しやすい	土壌の排水性を改善する

一年生タイプと多年生タイプ※の相違点は上表の通りですが、生育環境による形態の変化が極めて多いので、例えば一年生タイプでもほふく型の個体があるなど、確実に見分けることは困難のようです。

※なお多年生タイプは「ツルスズメノカタビラ」や「オオスズメノカタビラ」とも種分けされ、ケンタッキーブルグラスも多年生タイプです。



株立型（ほふく茎をほとんど出さない）  
ほふく型（ほふくする茎の節から発根）  
（「芝地の雑草」ダウ・ケミカル日本より）

これらの特徴を活かした防除方針は左表のようになります。厄介な雑草には違いますが、しっかり向き合い、今年も芝生管理に勤しんでいきましょう。

## 製品紹介

## ハーレイDF

## 極めて低薬量でスズメノカタビラに高い効果



- 有効成分：リムスフロロン 23.5%
- 毒性：普通物
- 魚毒性：A類
- 原体メーカー：デュポン
- 包装：10g/袋、10袋入り/ケース

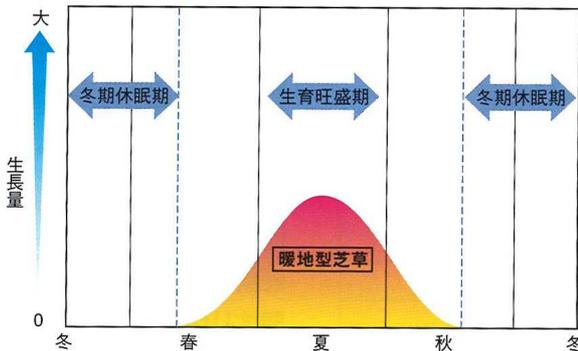
- 平米あたりわずか0.005～0.015gと極めて低薬量のため、少量で広い面積に散布でき、省力化できます。
- 特に発生後のスズメノカタビラに優れた防除効果を発揮する茎葉処理剤です。メヒシバ(2-3葉期)にも効果アリ。
- 土壌処理剤と組み合わせて使用するとより効果的です。
- 気温や降雨による効果の変動もほとんどありません。
- 使用の際は非イオン系展着剤を加用してください。
- 遅効性で雑草が完全に枯れるまで30～40日程度かかります。誤ってまき直ししないよう注意してください。
- 9-10月に散布すると効果の発現は速いですが、分解も速く残効は期待できません。
- 西洋芝には薬害を生じるので使用できません。

作物名	適用雑草名	使用時期	薬量/10a	希釈水量/10a
日本芝	一年生雑草	春～夏期(雑草発生揃期～生育初期)	7.5～15g	150～200L
		秋～冬期(雑草発生揃期～生育初期)	5.0～7.5g	

## MONTHLY TOPICS

### 芝草のいろいろ：暖地型と寒地型

一口に芝草と言ってもいろいろな種類があります。大きくは暖地型と寒地型とに分けられ(夏芝・冬芝とも)、「日本芝」と通常呼んでいる芝草は暖地型にあたります。日本列島は縦に長く、同じ芝生地でも地域によって適用できる芝草が異なる上、注意すべきは日本芝と洋芝とで散布できる除草剤が異なる場合が多いことです。

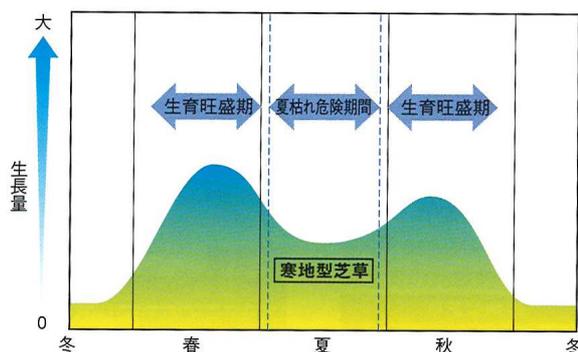


#### 暖地型芝草 (夏芝)

生育適温が25～30℃で夏の生長が旺盛です。暑さや乾燥に強い一方、耐寒性は低く、寒冷地では冬枯れします。ほふく茎をもつ多年草が多く、ローメンテナンスが可能です。種類によって異なりますが、適用地域は概ね東北以南～九州です。

#### 主な芝草品種

- ・シバ
- ・コウライシバ
- ・ヒメコウライシバ
- ・バミューダグラス
- ・ティフトンシバ
- ・センチピードグラス

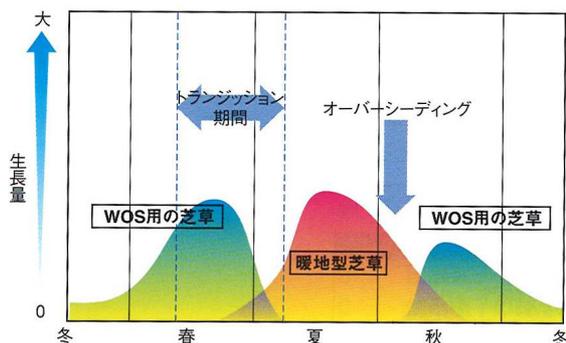


#### 寒地型芝草 (冬芝)

生育適温が15～20℃で、0℃以下でも枯死することがなく一年中緑の芝生が維持できますが、30℃を越す日が連日続くと夏枯れを起こす危険があります。ほとんどは種子で流通していて、2～3草種を混播して利用します。適用地域は北海道・北東北が中心ですが、耐暑性の強い品種が開発され関東以西での利用が増えてきています。

#### 主な芝草品種

- ・ベントグラス
- ・トールフェスク
- ・ケンタッキーブルーグラス
- ・ペレニアルライグラス



#### ウィンターオーバーシーディング (WOS)

暖地型芝草をベースにして秋に寒地型芝草をオーバーシード(追い播き)し、冬期間も緑度をもたせ、春に暖地型に戻して一年中常緑化する方法です。品種の選定が難しく、失敗すると大面積の張替えも必要になる場合があります。適用地域は関東以西の暖地が中心です。傷害を受けた芝地・芝生の補修などを目的としたオーバーシードでも、慎重に品種を選定しましょう。

取扱い・お問合せは—

緑を育み、未来へつなぐ



株式会社 サカエグリーン

〒930-0171 富山県富山市野々上147番地  
TEL:076-434-0036 FAX:076-434-4968